

あ と が き

昨年5月の評議会で、紀要編集委員の選出方法が改正されたことにより、今年度の紀要編集に当たっては、各登録団体から委員を推薦することが可能になり、委員の数も増え、副委員長は人文社会系と自然系の2名となるなど、編集体制が充実した。総合学術調査の成果報告である紀要の編集と発行が、学会の内外共に重要な位置を占め、今後益々期待されることと受け止めたい。

今回の紀要第54号には、18調査班23編の学術調査報告と特別寄稿3編を掲載することができた。初稿の提出に、若干の遅延が見られたが、最終的には執筆者・事務局・編集委員、皆様の連携プレーで遅れを取り戻すことができた。ご協力に感謝したい。

本冊の表紙の色は、地元からの希望で、木屋平に生息するアカゲラの頭部の赤色をイメージして選ばれた。口絵のカラー印刷は今年度から採用した。折り込み印刷を廃止したことで、経費的には軽減することができ、代わってカラー口絵を導入することができた。関係各位の理解と協力に感謝申し上げたい。口絵の選考にあたっては、編集委員会にWGを設け、カラーでしか特色が表現できない口絵を対象に、その選定を行った。念願が叶ったことで、紀要の一層の魅力に育てていきたい。

前回より始めた特別寄稿は活用されて、件数、ページ数共に増加しつつある。これまで、紀要第51号で、旧木沢村の土砂災害の緊急調査報告を取り上げた実績に始まり、本来の趣旨、すなわち投稿規定にある通常の調査報告とは別に、調査に関わるトピック性やテーマ性のある原稿を若干数募集するもので、新たな発見など、速報性や緊急性が必要な場合、特に調査成果が多かった場合など、今後もこの企画を活用し、特色のある原稿をお寄せ頂くことを期待したい。編集委員会としては、さらに特別寄稿のあり方を考えながら、ふさわしい原稿の選定に取り組みたいと考えている。

この度の特別寄稿は、長年に渡って、事務局として、50周年記念行事の実施をはじめ、阿波学会の活動全般を支えて下さった新 孝一主幹にお願いした。「阿波学会設立前後に関するメモ」と題する論文の要旨にもあるように、発足直後の阿波学会、郷土研究発表会が直面した運営上、財政上の状況が、今日の阿波学会の置かれた状況や、近い将来に向けての運営・活動を考える上での糧ともなる内容を中心に、資料文献をもとにまとめ、提案頂いた。玉稿に厚くお礼申しますとともに、定年退職後の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

また、2年に渡って、常に熱意をもって事務局を担当頂いた星 裕美さんには、実務全般に渡り、大変お世話になりました。代わって本年4月から事務局を引き継いで頂くことになった中崎 誠さんには、着任早々から最終稿のとりまとめに尽力頂きました。

既にご存じのように、紀要報告書で公開されている成果の裏付けとなる基礎データの収集は、単に当年度の総合学術調査期間に留まらず、背景には、参加学会や班員の不断の課題探求がある。阿波学会の地域貢献は、その成果と事務局を担う図書館との協働の上に成り立っていることを読者の皆様にはこの場を借りてご披露したい。引き続き、関係機関・団体ならびに会員諸氏の連携と協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、紀要54号発行に支援頂いた関係各位には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げますと共に、益々のご発展をお祈りします。

(石田 啓祐)

阿波学会紀要編集委員会

委員長 石田 啓祐

副委員長 中野 真弘 川添 和義

委員 石尾 和仁 岡山真知子 小川 誠 喜多 順三 近藤 孝造 仙波 光明

西田 素康 羽山 久男 堀江 秀茂 萬宮千鶴子 山本 裕史 和田 賢次